

地域と大学の自由な連携： 姪浜西南大学まちの進捗(1)

小 出 秀 雄

1. はじめに

西南学院大学教育インキュベートプログラム「姪浜西南大学まち～域学連携による実践コミュニティの教育効果～」は、学生の社会力向上と地域の活性化を目的とした、2015年度後期から2018年度前期の3年間の取組である。現在の大学が組織として行うべき教育・研究・社会貢献の3領域のすべてをカバーし、地域の方々と学生たちおよび教員（筆者）が常に試行錯誤を繰り返し、取組の内容を変化させてきている。

本稿では、全取組期間の3分の2が経過した姪浜西南大学まち（Meinohama Seinan Univer “City”）の進捗報告の1回目として、地域と大学が「自由に連携」することによって生まれた、2014年度および2015年度における主な出来事を紹介する。

まず、この取組の目的と地域の歴史を端的に述べる。次に、2014年度と2015年度に地域と大学が協働した大きな出来事を振り返り、その時点での成果と課題を整理する。

なお、2016年度以降の取組については、稿を改めて報告する。

2. 姫浜西南大学まちの目的と地域の歴史

教育インキュベートプログラム「姫浜西南大学まち」が発足したときに掲げた取組の目的は、以下の3つである。

- (1) 姫浜地域（商店街）と本学が、対等に頻繁に交流するしくみと雰囲気をつくる。
- (2) 学生が常に社会人とコミュニケーションすることにより、学生の社会力の向上を促す。
- (3) 学生の斬新な発想と地域との協働で、歴史と文化が豊かな姫浜地域を盛り上げる。

図表1は、姫浜西南大学まちを発案したときから今日まで使い続けている、実践的取組を1枚で紹介するための図である。前述の取組目的も、この図に盛り込んである。お互いに対等に頻繁に交流するという理由で、この取組では「西南学院大学姫浜学部」や「姫浜商店街西新支店」などと、お互いが交差す



図表1 取組の紹介図（筆者作成）

るような名称をあえて設けている。今日までこの件で、クレームは届いていない。

取組のサブタイトルに含まれている「実践コミュニティ」(Communities of Practice)とは、ウェンガーほか(E. Wenger *et al.*)が提唱している新たな学習の形態である。実践コミュニティは、「あるテーマに関する関心や問題、熱意などを共有し、その分野の知識や技能を、持続的な相互交流を通じて深めていく人々の集団」と定義されている¹。つまり実践コミュニティとは、各人の参加の度合いが高まることによって学びを深く実感し、そのコミュニティのコアに近づいていく、あるいは新たなコアができるといった、ダイナミックな空間である。

実践コミュニティにはさまざまな形態がありうるが、姫浜西南大学まちが想定しているのは、経済学部筆者のゼミ生だけでなく、他学部や他大学の学生有志が気軽に参加するとともに、社会人や地域の方も自発的に参加する「緩いコミュニティ」である。そこに「関わり続ける」ことで自分の可能性、他者との交流の面白さに目覚めた参加者は、新たなコミュニティに参加したり、自分たちでコミュニティを創ったりするようになる。

次に、地域と大学の距離感について説明する。

西南学院大学は福岡市早良区西新に所在しており、学生の活動・研究フィールドである同市西区姫浜周辺とは、両区の境界である室見川を挟んでやや離れている印象がある。

とはいえ実際、学生や教員は福岡市営地下鉄(西新～藤崎～室見～姫浜)や西鉄バス、自転車などで、姫浜と西新(あるいはさらに遠いところ)を行き来しており、身近に感じるようになっている。

現在は違う区に属している西新と姫浜であるが、1972(昭和47)年4月1日の区制施行時は、西新も「西区」だった。1982(昭和57)年5月10日の行政区再編成により、それまでの西区が同区・早良区・城南区に分割された結果、西区西新は早良区西新となり、現在に至る。

1 ウェンガーほか(2002)33頁。正統的周辺参加については、レイヴ・ウェンガー(1993)を参照のこと。

さらにさかのぼると、西新と姪浜の前身である「西新町」と「姪浜町」はともに、1878（明治11）年11月1日に行政区画として発足した福岡県「早良郡」に属しており、室見川と原村北部を挟んでほぼ隣同士の町だった。どちらも旧唐津街道沿いの繁華街であり、大正時代や昭和初期の地図を見ると、現在の西新と姪浜に人家や公共施設が集中していることがわかる²。

下記は、早良郡発足後の西新と姪浜の変遷をたどったものである。なお、姪浜は地域名や駅名である一方、町名は「姪の浜」である。

【西新の歴史】

（早良郡）西新町村³・倉原村⁴→〈町村制〉早良郡西新町（1889年4月1日）→福岡市に編入（1922年4月1日）→〈住居表示〉同市西新、城西、曙など（1969年7月1日）→〈区制〉福岡市西区西新など（1972年4月1日）→〈再編成〉同市早良区西新など（1982年5月10日）

【姪浜の歴史】

（早良郡）姪浜村⁵→〈町村制〉早良郡姪ノ浜村（1889年4月1日）→〈町制・改称〉同姪浜町（1893年1月10日）→福岡市に編入（1933年4月1日）→〈区制〉同市西区姪浜町（1972年4月1日）→〈住居表示〉同市西区姪の浜、愛宕（1976年2月1日）→〈再編成〉同市西区姪の浜など（1982年5月10日）

同じ西区には九州大学伊都キャンパス（以下九大）が所在するが、姪浜と九大は、姪浜と本学よりかなり距離がある。直感的には、区が同じだと近い、あ

2 例えば、西新については大淵善吉編（1926）、姪浜については姪浜町教育会編（1933）。

3 現在の早良区西新1-7丁目、百道1-3丁目、高取1-2丁目、藤崎1丁目、弥生1-2丁目、城西2-3丁目、昭代1-3丁目、祖原、城南区荒江1丁目、荒江団地など（平凡社地方資料センター編（2004）623頁）。

4 現在の早良区祖原、城西3丁目、昭代1-2丁目、曙1-2丁目（平凡社地方資料センター編（2004）623頁）。

5 現在の西区姪の浜1-6丁目、姪浜駅南1-4丁目、愛宕1-4丁目、愛宕南1-2丁目、生の松原1-4丁目、豊浜3丁目、大町団地、小戸1-5丁目、内浜1-2丁目、石丸1丁目、福重3丁目（平凡社地方資料センター編（2004）638頁）。

るいは区が違くと遠いというイメージをもつが、西新と姫浜については案外近いことから、お互いに対等に頻繁に交流し始めた。

3. 2014年度の姫浜西南大学まちの出来事

次に、この教育インキュベートプログラムが主催、あるいは協働してきた出来事（イベント）を振り返る。図表2は、2014年度の出来事を列挙したものである。以下、大きな出来事をピックアップして紹介する。

No.	月/日	2014年度出来事	場 所
1	8/10(日)	「みそ蔵」視察	みそ蔵（西区姫の浜）
2	8/20(水)	姫浜まち視察	姫の浜
3	10/19(日)	姫浜きんしゃい芸術祭（手伝い）	買物広場（西区姫の浜）
4	10/26(日)	ハローウィンパーティー in めいのはま（手伝い）	みそ蔵
5	11/26(水)	商店街活性化に貢献？する調理実習のひとつ（学生企画）	西南学院大学5号館401教室（早良区西新）
6	1/29(木)	「姫浜商店街⇄西南学院大学イベント」打ち合わせ	西南コミュニティーセンター（早良区西新）
7	2/18(水)	「姫浜商店街⇄西南学院大学イベント」はじめるよ！会（全体会&交流会&懇親会）	西南コミュニティーセンター&midori 食堂（西区姫の浜）
8	3/23(月)	「姫浜商店街⇄西南学院大学イベント」ワークショップ（vol.1）	西南コミュニティーセンター

図表2 2014年度の出来事（筆者作成）

3.1. 姫浜の視察と連携の模索

姫浜西南大学まちがプロジェクトとして正式に採択されたのは、2015年7月1日である。

その1年ほど前から、筆者は姫浜地域の視察を始めた。別の教育プロジェクトの成果報告会で出会った、姫浜商店街の女将さんを応援する会「あこめっこ」の因幡利子代表に誘われて、2014年の夏に姫浜のまちを何度か歩き、秋の地域行事にサポート学生を派遣した。また、因幡代表を本学に招いて、筆者が



写真1 旧唐津街道のランドマーク

(2014年8月20日筆者撮影)



写真2 旧街道の佇まい

(2014年8月20日筆者撮影)

担当している1年の「基礎演習Ⅰ」(＝経済学部必修科目)の時間に、学生主導の調理実習を行ったこともある。

筆者は姫浜に住んだことがないため、まずは学生や社会人とまちを歩いたり(写真1・写真2)、自分の子どもと行事に出かけたりして、姫浜がどのような地域なのかを知ろうと努めた。どのような雰囲気のみちで、どのような店舗があり、そしてどのような人たちが住んでいるのかを自分なりに把握し、子どもの視点も踏まえつつ、地域と協働しながら学生が成長するような取組ができるかどうか検討した。

姫浜では、3つの商店会から構成される「姫浜商店会連合会」が広いエリアで営業・活動しているが、かつて栄えていた旧唐津街道沿いは店舗が少なくなり、シャッターが閉じた物件が並んでいる。周辺に住んでいる人は多いものの、気軽に出会い話す場所はなく、地域コミュニティのつながりが弱くなっている。

そのような中で、活動・研究フィールドおよび新たなコミュニティづくりの場として、歴史あるまちなみが残る旧唐津街道「姫浜宿」で、学生が子どもや年配の方と交流し、自身のコミュニケーション能力を養いつつ世代間をつなぎ合わせることは、人材教育の面だけでなく社会的にもかなり意義があると思

6 <https://akomeko.jimdo.com/>

7 久保保彦会長。同連合会は、姫浜商店会、姫浜中央商店会、姫浜駅地区商店会の連合体。<http://meinohama.com/>

至った。

それと同時に、つながりの弱い地域を盛り上げることができる原動力は、「よそ者」である学生の斬新な発想とチャレンジ精神である。ただし、いきなり学生が地域に飛び込んでいくのではなく、イベントのお手伝いから入り、地域の方に徐々に顔と名前を覚えられ、その上でやってみたいことを相談して、実際にやってみる。そのようなステップを踏むには、地域と大学の関係者間での理解と合意が必要である。

経済学などの社会科学を勉強している学生にとって、地域社会は「実験場」であるといえる。座学で理論を学ぶだけでなく、本当にそれが正しいかどうか、自ら実験してほしい。実験には当然失敗がつきものであり、むしろそこから大いに学ぶことができる。成功したり失敗したりという、実社会では当たり前のことを、学生は活動・研究フィールドで経験する。

3.2. 「姫浜商店街 ⇄ 西南学院大学イベント」開始

以上のような準備期間を経て、2015年2月18日に西南コミュニティーセンターにて、「姫浜商店街 ⇄ 西南学院大学イベント」は始めるよ！会を開催し、3月23日にはそのワークショップを開催した(写真3・写真4)。は始めるよ！会には30名(=社会人24名、学生6名)、ワークショップには35名(=社会人20名、学生15名)が出席した。



写真3 は始めるよ！会の写真集

(筆者作成)



写真4 ワークショップでの話題提供

(2015年3月23日学生撮影)

この2日間は、姪浜商店会連合会や「唐津街道姪浜まちづくり協議会」⁸など、姪浜で精力的に活動している団体や個人だけでなく、地域や人とつながりたいと思う社会人も多く集い、姪浜の故事や姪浜と本学の関係を学びつつ、お互いに懇親を深めることができた。

下記は、「姪浜商店街 ⇄ 西南学院大学イベント」はじめるよ！会のプログラムである。

(1) 全体会@西南コミュニティーセンターホール [14:00-15:30]

1. 開会挨拶，出演者の紹介 小出秀雄（西南学院大学経済学部）
2. 唐津街道の紹介 川岡 保（唐津街道姪浜まちづくり協議会）
3. 学生大喜利「こんな商店街だったら毎日行きたい！」 学生有志
4. 商店街と大学のつながり

JEFF（本学法学部OB），因幡利子（あこめっこ）

5. JEFF ライヴ!!

6. 閉会挨拶 因幡利子

(2) 交流会@西南コミュニティーセンター多目的室 [15:40-16:30]

お茶会&体験コーナー

～レモンケーキ，薔薇ジュース，オーラ写真，ハンドマッサージなど～

(3) 懇親会@midori 食堂⁹（本学文学部OGが姪の浜6丁目にて経営）

[18:30-]

本学に所在する西南コミュニティーセンターは、地域に開かれた場所であると銘打っているものの、地域の方の利用と本学関係者の利用がほぼ「分断」されており、当時社会人と学生が同じ場で話をするということはほとんどなかった。

以上のように、2014年度末に「姪浜商店街 ⇄ 西南学院大学イベント」とい

8 川岡保会長。同協議会の事務局は、空き家を抜本的に改築した「まちの案内所」（福岡市西区姪の浜6-13-21）。<http://www.hf.rim.or.jp/~daiji/karatsu-meinohama/>

9 <https://www.facebook.com/midorisyokudou/>

うタイトルで交流を始めて以降、本学の学生が姫浜に出向くようになっただけでなく、西新の本学敷地内に地域の方が出入りするようになり、学生も普段のコミュニケーション能力が問われるようになった。

4. 2015年度の姫浜西南大学まちの出来事

図表3は、2015年度の出来事を列挙したものである。以下、大きな出来事を中心に紹介する。

No.	月/日	2015年度出来事	場 所
1	4/5(日)	ユル〜い懇親会	あこめの浜(西区姫の浜)
2	4/18(土)	西南生とカフェめぐり in めいのはま	姫の浜
3	4/28(火)	「みそ蔵」交流会(vol.1)	みそ蔵
4	5/3(祝) & 4(祝)	西区どんたく(手伝い)	西区役所(西区内浜)
5	5/19(火)	美心セラピー：世界に一つだけの心の地図作り	西南コミュニティーセンター
6	5/25(月)	「みそ蔵」交流会 vol.2	みそ蔵
7	5/30(土)	第7回ワンディショップ&フリーマーケット in めいのはま	買物広場&みそ蔵
8	6/5(金)	メイクセラピー：笑顔美人になる魔法のポイントメイク術	西南コミュニティーセンター
9	6/19(金)	「みそ蔵」交流会 vol.3	みそ蔵
10	6/26(金)	メイクセラピー：眉美人の法則で目力アップ	西南コミュニティーセンター
11	7/20(祝)	「みそ蔵」活用企画コンテスト 〜みそコン〜	西南コミュニティーセンター
12	7/25(土) & 26(日)	姫浜まつり(手伝い), M's コミュニティ仮オープン	M's コミュニティ & 買物広場
13	8/10(月)	映画「なつやすみの巨匠」中島監督：動画ワークショップ	M's コミュニティほか
14	8/20(木)	中島監督と能古島サイダー飲みながら国際交流する会	中洲大洋(博多区)

図表3 2015年度の出来事(筆者作成)

No.	月/日	2015年度出来事	場 所
15	8/29(土)	講座「九大生による折り紙&手品」(学生企画)	M's コミュニティ
16	9/5(土)	地域活性学会第7回研究大会 (発表)	大手前大学夙川キャンパス (兵庫県西宮市)
17	9/12(土)	みんなで日本映画を語り尽くす会	西南コミュニティーセンター
18	9/17(木)	社会人基礎力を学ぶワークショップ 第1回：シンキング ～目標設定～	西南学院大学1号館708教室
19	9/26(土)	西南生と交流会&清掃&一品持ち 寄りご飯会	M's コミュニティ&買物広場
20	9/27(日)	西区まるごと博物館 in 姫浜中央 公園2015(手伝い)	姫浜中央公園(西区姫浜駅南)
21	10/2(金)	ここだけのメイク講座第1回：ツ ヤ肌をつくる魔法のテクニック	西南コミュニティーセンター
22	10/15(木)	社会人基礎力を学ぶワークショップ 第2回：アクション・コミュニ ケーション	M's コミュニティ
23	10/19(月)	福岡市商店街活力アップ講座事 業・人材育成講座(講演)	福岡信用金庫姫浜支店 (西区姫の浜)
24	10/24(土)	姫浜商店会連合会「M's コミュニ ティ」オープニングイベント	M's コミュニティ&買物広場
25	10/31(土)	ハロウィンパレード in めいのはま (学生企画)	みそ蔵ほか
26	11/6(金)	ここだけのメイク講座第2回：ア イシャドウのつけ方で美力アップ	西南コミュニティーセンター
27	11/11(水)	九大生と姫浜で作戦会議&懇親会 (第1回姫浜懇親会)	居酒屋あるよ(西区姫の浜)
28	11/19(木)	社会人基礎力を学ぶワークショップ 第3回：アクション・コミュニ ケーション	西南学院大学1号館708教室
29	11/20(金)	ここだけのメイク講座第3回：眉 美人の法則で目力アップ	西南コミュニティーセンター
30	11/23(祝)	東京オトナ大学(講演)	サピアタワー(東京都千代田区)
31	11/24(火)	第3回西南姫浜会(講演)	M's コミュニティ
32	11/28(土)	西南生と交流会&清掃&一品持ち 寄りご飯会	M's コミュニティ&買物広場
33	12/3(木)	社会人基礎力を学ぶワークショップ 第4回：シンキング	西南学院大学1号館708教室

図表3 つ つ き

No.	月/日	2015年度出来事	場 所
34	12/4(金)	ここだけのメイク講座第4回：女性らしさが増す唇とチークのポイントテクニック	西南学院大学2号館509教室
35	12/5(土) &6(日)	第2回地域課題解決全国フォーラム in 庄内(学生発表)	東北公益文科大学 (山形県酒田市)
36	12/14(月)	元気なまち・ふくおかを知るセミナー第1回	西南コミュニティーセンター
37	12/18(金) &19(土)	姫浜商店会連合会歳末抽選会(手伝い)&東北遠征成果報告会(学生企画)	M's コミュニティ
38	12/24(木)	社会人基礎力を学ぶワークショップ第5回：アクション・チームワーク	西南学院大学1号館708教室
39	12/27(日)	みそ蔵 de ワールドカフェ in めいのはま(学生企画)、西南生と清掃&忘年会	みそ蔵&買物広場&M's コミュニティ
40	1/8(金)	ここだけのメイク講座第5回：これまでのまとめ&悩み別メイク講座	西南コミュニティーセンター
41	1/27(水)	地域との共生を目指す元気商店街応援事業報告会(学生発表)	福岡商工会議所(博多区)
42	2/11(祝)	西南生と映画を観る会(学生企画)	M's コミュニティ
43	2/23(火)	地域課題解決プロジェクト創出セミナー(学生発表)	福岡市スタートアップカフェ(中央区)
44	2/24(水)	FUKUOKA NEXT 2016プレカフェ in 姫浜西南大学まち	西南コミュニティーセンター
45	2/26(金)	元気なまち・ふくおかを知るセミナー第2回	西南コミュニティーセンター
46	3/12(土)	元気なまち・ふくおかを知るセミナー第3回(工場見学)	日経西日本製作センター西部工場(東区)
47	3/16(水)	第32回西南ビジネスクラブ月例会(講演)	さんさん広場(博多区)
48	3/21(祝)	第8回ワンディショップ&コイバナフェスタ in めいのはま(学生企画)	M's コミュニティ&買物広場
49	3/26(土)	西南生と交流会&清掃&姫浜NEXT交流会	M's&広場&まちの案内所(西区姫の浜)
50	3/28(月)	姫浜西南大学まち×ぐるなび	西南コミュニティーセンター

図表3 つ づ き

4.1. カフェめぐり

「姫浜商店街⇔西南学院大学イベント」として、その後の活動に大きな影響を与えたのは、2015年4月18日に開催した「西南生とカフェめぐり in 姫浜」である。当日11時、姫浜駅に集合した学生はほとんどが女子で、旧唐津街道を初めて訪れる学生が多数だった（写真5）。



写真5 学生と姫浜まち歩き

(2015年4月18日・小原亮二氏撮影)

姫浜地域には北側と南側に、駐車場が広い大型商業施設があり、旧街道周辺にどのような店舗があるのかは、住民でなければ知らないのが実情である。当時、筆者のゼミ生の一人は、北側の商業施設にアルバイト出勤する際の自動車の「抜け道」としてこの界隈を利用しており、そこに商店街があるとは知らなかった、と話していた。

確かに、姫の浜2丁目・3丁目・6丁目の旧唐津街道沿いには、店舗が立ち並んでいたり、アーケードやタペストリーがあったりと、ここが商店街であるというサインは見当たらない（写真2）。そもそも姫浜「商店街」は通称であって、正式名ではない¹⁰。

とはいえ、この商店街に足を踏み入れると、店舗を経営しているのは気さく

10 前述の通り、組織名は「商店会」である。

な方ばかりであり、若者が姫浜に遊びに来たと知ると、さまざまなおもてなしをしてくれる。姫浜にも若者は多く住んでいるはずであるが、出会って話を交わすコミュニティがなく、その姿が新鮮なのであろう。

多くの学生が参加したこのカフェめぐりは、途中で2組に分かれてそれぞれ昼食をとり、再度合流してまち歩きをした。古い建物がところどころに残るまちなかを、かまぼこや削り節などの「姫浜名産品」をつまみ、魚市場まで歩いて行った学生たちは、初めての姫浜に魅了された様子だった。この日をきっかけに、姫浜のイベントのサポートや企画に関わるようになった学生が、写真5の中に3名いる。

まち歩きの最後に、本学文学部OGが経営している「novel cafe Lily」¹¹を訪れ、時間が許す限り会話を楽しんだ。昼食時には、やはり本学文学部OG経営の「midori 食堂」を訪れていた。

シャッター物件が増えていく旧唐津街道沿いで開業する若者がいて、しかもそれが本学の卒業生たちであるということに、学生たちは感銘を受けていた。また、商店会に所属している商店主も口々に「うちの子も西南で…」と、本学の卒業生が何人もいることを知る。姫浜と本学は遠い存在ではなく、実はこういう形で緩くつながっていたのである。

「西南生とカフェめぐり in 姫浜」を実施して以降、学生がどういうことに感化されるのか、あるいは感化されないのかが、徐々にわかってきた。単に歴史があるというだけでは、学生は反応しない。そこに新しい要素が加わって独自のスタイルになると、学生はにわかに関心を持つ。

天神や博多など、西新から東を向いていた学生たちは、料理や飲み物が美味しい上に雰囲気がよく、また来たくなるような店舗が、西の姫浜にいくつもあることを発見した。

そしてそこに、「コアメンバー」とよばれる学生が足繁く通うようになる。

11 <https://www.facebook.com/NovelCafeLily/>

4.2. 「みそ蔵」交流会（ワークショップ）

写真1と写真5に写っている旧マイヅル味噌、通称「みそ蔵」は、つい最近まで、旧唐津街道・姫浜宿のランドマークだった。残念ながら過去形である。建物の維持管理の難しさなどから「みそ蔵」はすでに解体され、その跡地から弥生時代の遺跡が続々と発掘されて、一躍話題となった。

2014年8月に2回、江戸時代の終わり（1830年以前）に建てられたこの歴史ある建物を、隅々まで見学させていただいた。この奥行きのある空間は、かつては酒屋、戦時中は飛行機の部品工場、戦後は味噌屋として使われていた。唐津街道姫浜まちづくり協議会の旧事務所も、かつてこの一角にあった。



写真6 初回の「みそ蔵」交流会

(2015年4月28日筆者撮影)

旧街道を象徴するこの独特の空間を活用して、本学学生と地域の方で新しいことはできないかと思案し、2015年の春に計3回、平日午後「みそ蔵」交流会を開催してみた（写真6）。

この交流会は、参加者全員で「みそメロンパン」¹²や菓子を食べながら、毎回異なることに取り組むワークショップである。ある回は模造紙とマジックペンを使ってイベントのアイデア出しを行い、ある回は各自スマートフォンを使って建物内の写真撮影を行った。

12 「みそ蔵」と同じ建屋で営業していた、「パンの店蔵」の看板商品。「みそ蔵」が解体される前に、店舗は西区愛宕4丁目に移転した。

参加した学生の大部分は、筆者が担当している「環境政策」（＝経済学部経済学科の選択必修科目）の履修者であり、出席すれば成績に加点されるため、毎回ある程度の人数が集まった。その一方で、このワークに自主的に参加し、その後コアメンバーとなる学生もいた。

この交流会で少々驚いたのは、回が進むにしたがって、社会人が増えていったことである。最終回ではついに、学生より社会人の数の方が上回った。

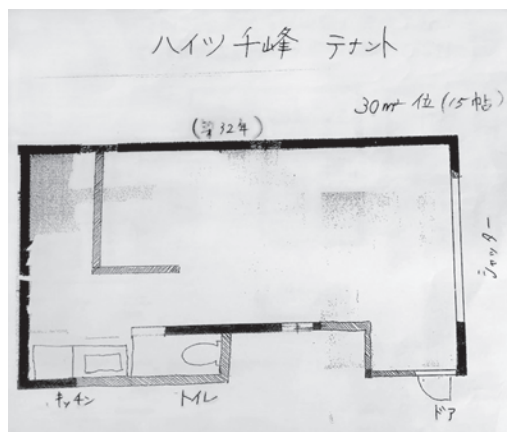
「姫浜のあそこで学生が集まって何かやっている」という噂が広まり、最終回では、当時「オール福岡ケ」と豪華キャストで話題となった、映画「なつやすみの巨匠」¹³の中島良監督が飛び入り参加することとなった。筆者もそこで初めてお会いした中島監督とはその後、動画ワークショップや西新・姫浜での映画上映会を次々と開催していくことになる。

「みそ蔵」ではその後、コアメンバーの学生が企画運営する「ハロウィンパレード in めいのはま」が2015年10月31日に、「みそ蔵 de ワールドカフェ in めいのはま」が同年12月27日に、それぞれ開催された。春の「みそ蔵」交流会に参加した学生たちは、7月20日の「みそコン」（＝「みそ蔵」活用企画コンテスト）でアイデアを披露し合い、秋と冬に姫浜地域を盛り上げるイベントを実現した。建物はすでにないが、学生のクールな発想を靈的に引き出すあの空間は忘れ難い。

4.3. M's コミュニティの設立

2015年の春、筆者が姫浜西南大学まちを構想している段階で、旧唐津街道沿いの空き店舗を借り、人が集まり地域が活気づく場所をつくりたい、と姫浜商店会連合会が提案してきた。

姫浜に学生が遊びに来て、地域の方とじっくり交流するためには、気兼ねなく長居できる「たまり場」が必要である。当初は前述の「みそ蔵」をたまり場にしようと考えていたが、建物の維持管理の点で先行きが不明であるため、新たな場所を探していた。



図表4 M's コミュニティの間取り (手書き)

旧街道沿い、姫の浜3丁目の「姫浜買物広場」¹⁴の東隣に、空いてからそれほど時間が経っていない物件があった(図表4)。トイレとキッチンがあるため、買物広場でイベントを行うときにここが開いていると、大変便利である。また、会合を開いたり備品を置いたりするには、手頃な広さである。壁が真っ白で、スクリーンを広げなくてもプロジェクタできれいに映るのもうれしい。家主は、商店会連合会が地域のために利用するのであれば家賃を安くする、と申し出てくれた。

地域と大学の交流拠点をつくって地域を活性化するプランは、福岡市の平成27年度「地域との共生を目指す元気商店街応援事業」に採択された¹⁵。姫浜商店会連合会、姫浜商店街の女将さんを応援する会「あこめっこ」、本学の筆者のゼミという区を超えた連携は、大学内だけでなく行政も認める存在となった。

前述の姫浜買物広場という名称も、実はこのプロジェクトがきっかけでこの名に変更され、現地に立派な案内板が設置された。それはおそらく2016年の半ばの出来事で、こういうことが実現するのだと、ある日ふと案内板を見かけて筆者も驚いた。

14 <http://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/c-syogyo/business/shotengai20160907.html>

15 <http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/48113/1/gennki.pdf>

さて、2015年7月下旬の姫浜まつり（＝姫浜商店会主催の夏祭り）のタイミングで、この「フリースペース」（自由に利用できる場所の意味）は仮オープンした。まつり会場の姫浜買物広場はトイレがないため、多くの人が入ってきて用を済ませてから、ここは何に使われるかと興味を持った様子だった。

当初は、部屋の奥（＝図表4のL字部分）にカフェのカウンターのようなものをつくる、というアイデアもあったが、限られたスペースをフル活用するため、動かしづらい棚や台などを片側の壁に並べる程度で、あとは臨機応変に机や椅子を出し入れするようにした。また、プロジェクタ、プリンタ、ホワイトボード、スクリーンなどの備品を、誰でも使えるようにした。

2015年秋の本格オープン控え、「フリースペース」に代わる正式名を決める会合で、ある若い商店主が、姫浜の（新しい）コミュニティを意味する「M'sコミュニティ」という名称を提案した。この軽快な響きが、新しいことをやろうと意気込む年配の店主たちにも受け入れられ、全会一致でこのM'sコミュニティに決まった。筆者もこの場に居合わせたか、エネルギーが一気に高まったのをよく覚えている。

そして2015年10月24日、福岡県議会議員、福岡市議会議員、福岡市西区長、姫浜商店会連合会会長、本学学長が参列し、M'sコミュニティは正式にオープンした（写真7・写真8）。現在、コミュニティを管理しているのは商店会連合会であり¹⁶、レンタル料金として1時間500円を支払えば、常識の範囲内で何を催してもよい。

また、学生がM'sコミュニティで何かをしたい場合、「学生特割」としてレンタル料金を徴収していない。これまで、九大生が子ども向けの折り紙・手品教室を開いたり、本学学生が映画鑑賞会を企画したり、複数の大学の学生が勉強会を行ったりしている。

現在M'sコミュニティのスケジュールは、Social Networking Service（SNS）を組み合わせて管理・運営している。商店会連合会メンバーと本学学生で構成

16 M'sコミュニティ設立から2016年末までは、あこめっかがコミュニティの委託運営をしていた。



写真7 オープニングセレモニー

(2015年10月24日筆者撮影)



写真8 M's コミュニティ

(2015年12月22日筆者撮影)

している LINE グループ「M's コミュニティチーム」が、最新の月間スケジュールを共有し、それを Facebook ページのトップとブログ記事に掲載している¹⁷。少し手間がかかるが、変更や追加があれば遅延なく対応しており、運営に支障はない。

2017年10月のコミュニティでは、おしゃべりカフェ、シニアサロンえがお、ECC ジュニア、スピリチュアル占い、手相人相読み取り術、子育て勉強会、M's としょかん（学生企画）などが予定されている。

4.4. 社会人基礎力ワークショップ

「社会人基礎力」(Fundamental Competencies for Working Persons) は、「前に踏み出す力＝アクション」, 「考え抜く力＝シンキング」, 「チームで働く力＝チームワーク」の3つの能力および12の能力要素から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が提唱している¹⁸。

基礎学力と専門知識を生かすための社会人基礎力は、大学での従来の教授形式では得ることができない。チームを編成し相手の意見を丁寧に聴く、進んで取り組み他人を巻き込む、課題を発見しその解決を図る、といった社会人基礎力のエッセンスは、姫浜西南大学まちのような実践形式にかなり当てはまる。

17 <https://www.facebook.com/meinoseinan/>, <http://meinoseinan.seesaa.net/>

18 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>

2015年度の後期、筆者が担当する3年の「演習Ⅰ」（＝経済学部必修科目）に「就勝ゼミナール」⁹⁾の中尾えがお講師を迎えて、社会人基礎力のアクション・シンキング・コミュニケーションを養うワークショップを、計5回開催した。文学部英文学科1年も1名、自主的に参加した。

単調になりがちなゼミの中に、自分の能力をフルに動かさなければならないワークを入れることで、ゼミ生は緊張感を持つようになった。「期日までに提出」の課題がたびたびあり、真面目に取り組む学生とそうでない学生の差が徐々についていった。

ワークショップ2回目の2015年10月15日には、正式オープンを抑えたM'sコミュニティに集合し、旧唐津街道周辺を歩いている人に将来の夢を聞き出して自分の夢を固めていく、「姫浜夢集め」を実施した（写真9）。

話に付き合ってくれる人をつかまえられる学生が何名かいたが、見た目があやしい、口調が雑など、それなりに理由がある。それに気づいて自分を改める学生もいれば、何も変わらず漫然と時間を過ごす学生もいる。機会を与えるだけでは、学生の悪習慣まで変えるのは難しいことがわかった。



写真9 姫浜夢集めのガイダンス

(2015年10月15日筆者撮影)

4.5. 学生の発表機会の増加

学生が人前で教員と何かを発表する、あるいは教員の代わりに発表するという機会は、特に文系学部ではほとんどない。教員が自分のことしか考えていないか、本当に学生が未熟であるか、あるいはその両方が原因であろう。

学生であれ社会人であれ、口頭発表は何度も人前で練習し、助言を仰ぎ修正し、ある程度本番でうまくいくことで、自信がつくものである。さらに次の発表では、前回うまくいかなかった点を踏まえて準備に臨む。教員は学生に、その機会とガイダンスを提供する役割を担う。

学生が自分で取り組んだことを話す場合、本で読んだだけの空論を話すよりはるかに自信を持って、実感を持って話せるに違いない。

筆者が担当している1年の基礎演習Ⅰではここ数年、「好きなこと300秒」というテーマで、毎回1名ずつ話をしてもらっている。高校卒業まで特に話さなくても過ごせた若者たちは、大学に入っていきなり自由に発言せよ、と筆者に要求される。そのとき、自分が好きなことであれば、5分間話すことはそれほど難しくない。むしろ、普段話さない学生が身振り手振りで、何分間も熱く話すこともある。

以上のような入学直後の取組を含めて、姫浜西南大学まちでは、学生が大学の外で自信を持って、実感を持って話す機会を大事にしている。

2015年12月5・6日に開催の「第2回地域課題解決全国フォーラム in 庄内」では教員と学生3名が、12月18・19日にM's コミュニティで自主開催した東北遠征成果報告会では同じ学生3名が、2016年1月27日福岡市の「地域との共生を目指す元気商店街応援事業報告会」では地域2名と学生1名が、2月23日福岡市の「地域課題解決プロジェクト創出セミナー」では教員と学生1名が（写真10）、それぞれ口頭発表を行った。

それ以降現在まで、学生が自ら企画したイベントや、依頼を受けてのコラボイベントの中で、学生が挨拶をしたり発表したりする機会が着実に増えている。最近では、筆者が同席しないこともある。

学生たちが自分で取り組んだことを自分の言葉で話すと、多くの聴衆が彼ら・彼女らの活動に共鳴し、ぜひもっと教えてほしいと申し出てくれる。自然に学生と社会人がつながっていくことで、お互いの活性化につながり始める。



写真10 教員と学生の共同発表

(2016年2月23日・島本浩光氏撮影)

5. 小 括

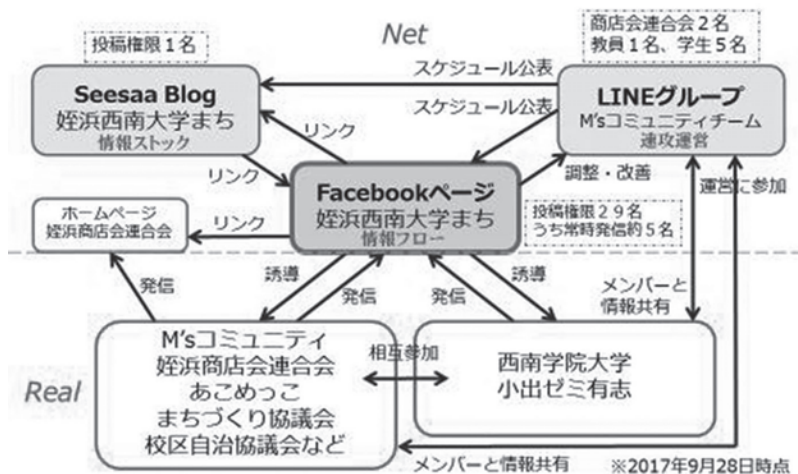
本稿では、全取組期間の3分の2が経過した姫浜西南大学まちの進捗報告の1回目として、地域と大学が自由に連携することによって生まれた、2014年度および2015年度における主な出来事を紹介した。

2014年度の夏から筆者は姫浜地域を観察し始め、同年度末に「姫浜商店街⇄西南学院大学イベント」という名で、地域と大学の交流を始めた。2015年度に入り姫浜は、カフェめぐりでまず女子学生を引きつけ、さらに「みそ蔵」交流会で学生と社会人を引きつけた。

そして2015年度の半ば、姫浜での交流拠点M'sコミュニティが設立され、区を超えて地域と大学が対等に頻繁に交流するしくみと雰囲気は徐々に整った。初めはイベントのお手伝いから入り、地域の方に顔と名前を覚えられて楽しくなり、自分でやりたいことをやってみる学生が、学部を問わず何名も現れるようになった。

2015年度が終わった時点で、この取組には以下のような課題が見られた。

- (1) 学内学外で取組内容が知られていないため、広報の努力が必要である。
- (2) 頭角を現す学生は全体のうちわずかであり、確率を高める余地がある。
- (3) 姫浜における状況が常に変わっていくため、より柔軟な体制をつくる。



図表5 姫浜西南大学まちのネット・リアル構造（筆者作成）

(1)については、本学の関係部署の協力、あるいは学外の取材などを経て、発信の頻度を高めていった。また、筆者が率先して、口頭発表や紙面発表を行った。(2)に関しては、ゼミの中で活動チームを編成させることで、チーム全員で地域に関わり、地域で学ぶようにした。以上の点については、2016年度以降の取組として、稿を改めて述べる。

最後に、(3)について、最新の取組体制を示しておく。図表5は、現時点での本取組の「ネット・リアル構造」である。当初、ネット空間ではFacebookページとSeesaa Blogに、リアル空間ではM'sコミュニティとその委託運営主体であるあこめっこに依存していたが、諸事情により、2017年1月から姫浜商店会連合会がコミュニティを直接運営し、本学学生が連携している。筆者を含めて、商店会連合会メンバーと学生は、LINEで日頃連絡しつつ、姫浜で会うことも多い。

地域と大学の自由な連携は、すでに次のステージへと入っている。

引用文献（五十音順）

- ウェンガー, エティエンヌ, リチャード・マクダーモット, ウィリアム・M・スナイダー著, 野村恭彦監修, 野中郁次郎解説, 櫻井祐子訳 (2002) 『コミュニティ・オブ・プラクティス』, 翔泳社。原著は, Wenger, Etienne, Richard McDermott and William M. Snyder (2002), *Cultivating Communities of Practice*, Harvard Business School Press。
- 大淵善吉編 (1926) 「最新福岡市街及郊外地図」(『帝国都会地図』9), 駸々堂旅行案内部 (<http://www.lib.pref.fukuoka.jp/hp/tosho/kindai/H24/hyojun/0492832a.html>)。
- 平凡社地方資料センター編 (2004) 『福岡県の地名』(日本歴史地名大系第41巻), 平凡社。
- 姪浜町教育会編 (1933) 「姪浜町新地図」(修正再版), 福岡県立図書館所蔵。
- レイヴ, ジーン, エティエンヌ・ウェンガー著, 佐伯胖訳, 福島真人解説 (1993) 『状況に埋め込まれた学習 — 正統的周辺参加 —』, 産業図書。原著は, Lave, Jean and Etienne Wenger (1991), *Situated Learning : Legitimate Peripheral Participation*, Cambridge University Press。